

第3章

市民意識と取り組みの現状

第1節 市民意識に見る環境問題

1 - 1 市民アンケート調査結果

- 市民の環境への関心や、環境への取り組みの現状を把握するために、平成23年2月にアンケート調査を行いました。（第1次アンケート）
- しかし、そのすぐ後の3月、東北・関東、長野県北部などで相次いで大きな地震災害が発生し、原子力発電所の事故も発生しました。このような状況において、市民の皆さんの環境に対する意識も大きく変わることが予想されたことから、同年8月、原子力や放射能問題に関する設問の追加など、2月のアンケート内容を一部修正し、再度アンケート調査を実施しました。（第2次アンケート）
- また次代を担う若い世代の意識把握を目的に、市内の中学生を対象としたアンケート調査を同年10月に実施しました。（中学生アンケート）

アンケート調査実施状況

調査対象

- ・第1次アンケート:無作為に抽出した市内にお住まいの20歳以上の市民1000人
- ・第2次アンケート:無作為に抽出した市内にお住まいの20歳以上の市民500人
- ・中学生アンケート:飯山市立城北中学校及び城南中学校生徒160人

調査方法:調査用紙の郵送

回収率

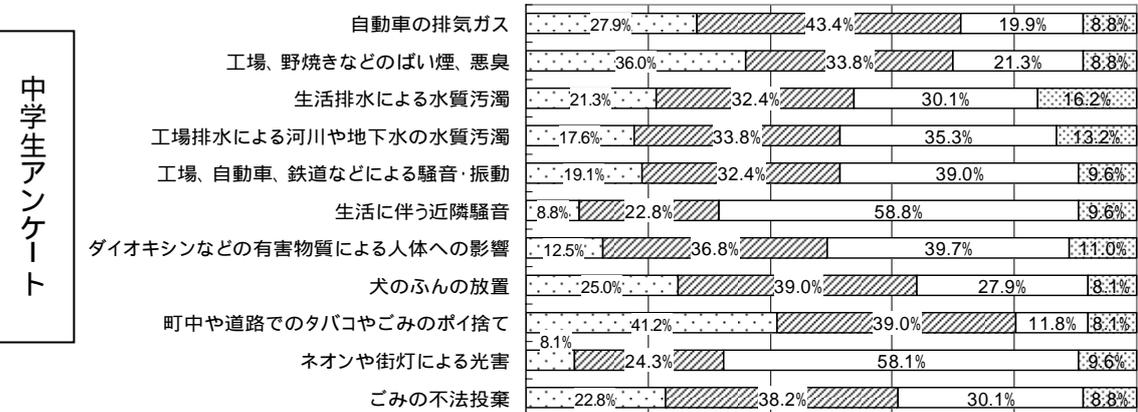
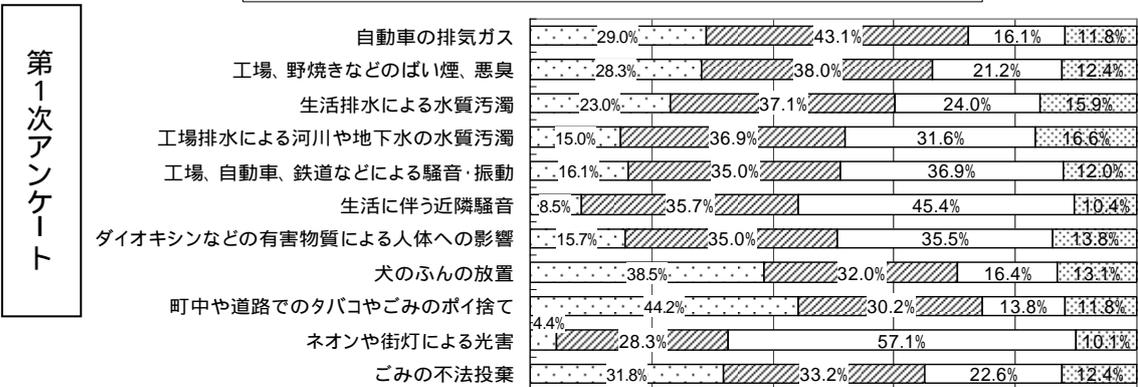
- ・第1次アンケート:43.4%(回答数434人)
- ・第2次アンケート:37.6%(回答数188人)
- ・中学生アンケート:85.0%(回答数136人)

(2) 周辺の環境について

周辺の「生活環境」について身近に感じますか。

第1次と中学生アンケート結果を見ると、犬のふんの放置、たばこやごみのポイ捨てなどが特に高い割合で身近に感じている結果となりました。

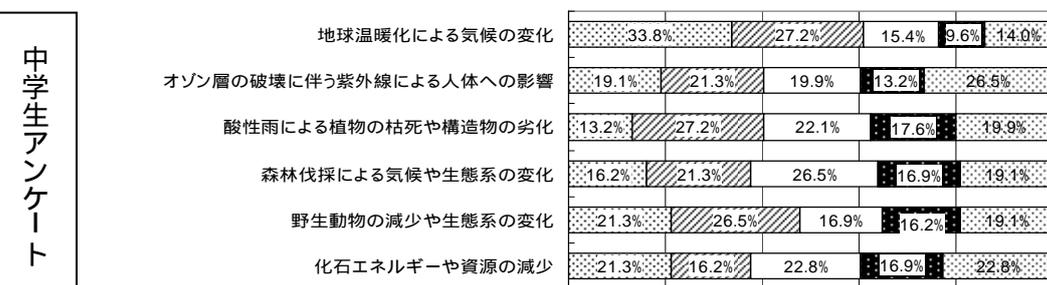
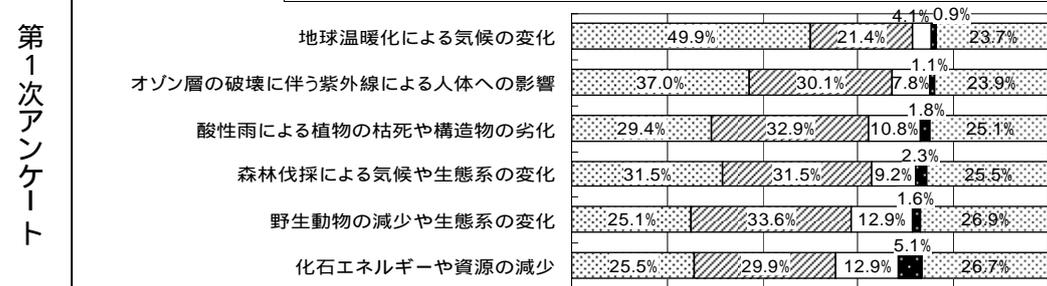
□ 身近に感じる □ あまり身近に感じない □ 身近に感じない □ 未回答



周辺の「地球環境」について関心がありますか。

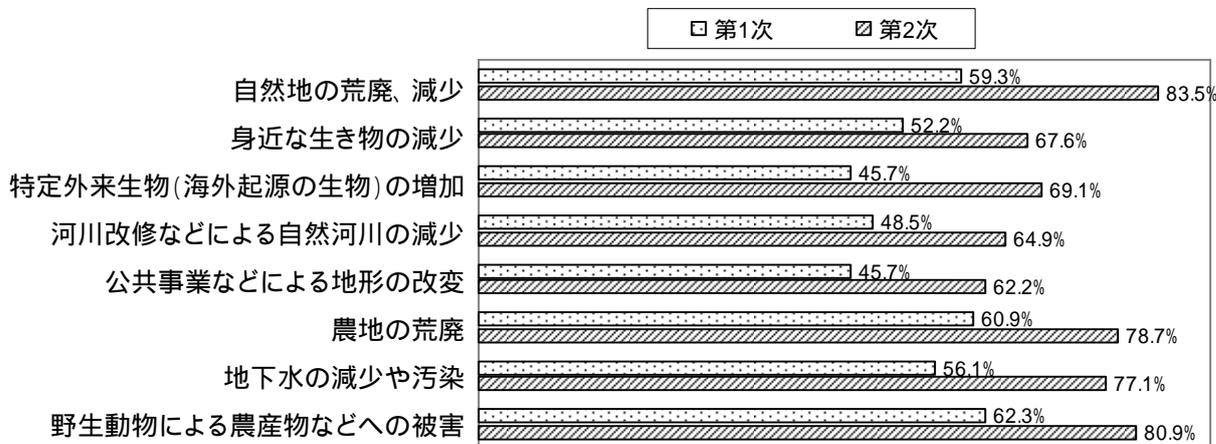
第1次と中学生アンケート結果の比較を見ると、ともに「地球温暖化による気候の変化」について身近に感じている方が多いことが分かります。ただ全体的に中学生の関心が低いので、関心を高めるための啓発なども取り組みが必要と思われます。

□ とても関心がある □ 少し関心がある □ あまり関心がない ■ 全く関心がない □ 未回答



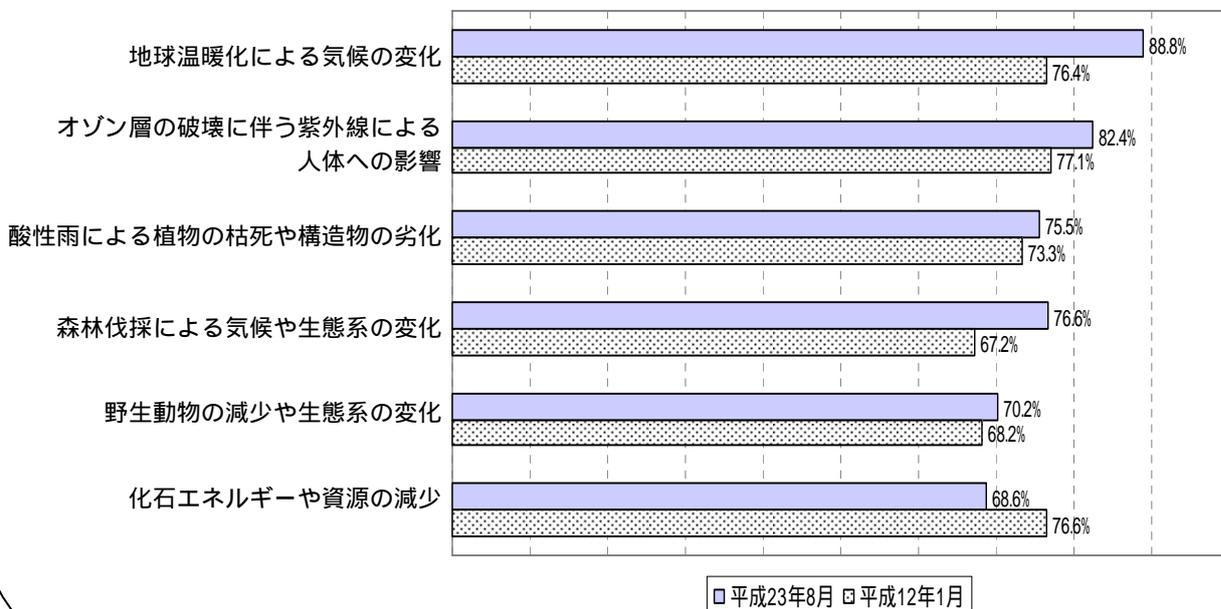
周辺の「自然環境」について関心がありますか。

下記のグラフは第1次と第2次アンケートにおいて、設問に対し「とても関心がある」「関心がある」と回答した人を合計した割合を比較したものです。震災前の第1次に比べ、震災後の第2次では関心が高まっていることが分かります。



市民アンケート「地球環境に関する関心」H23とH12の比較

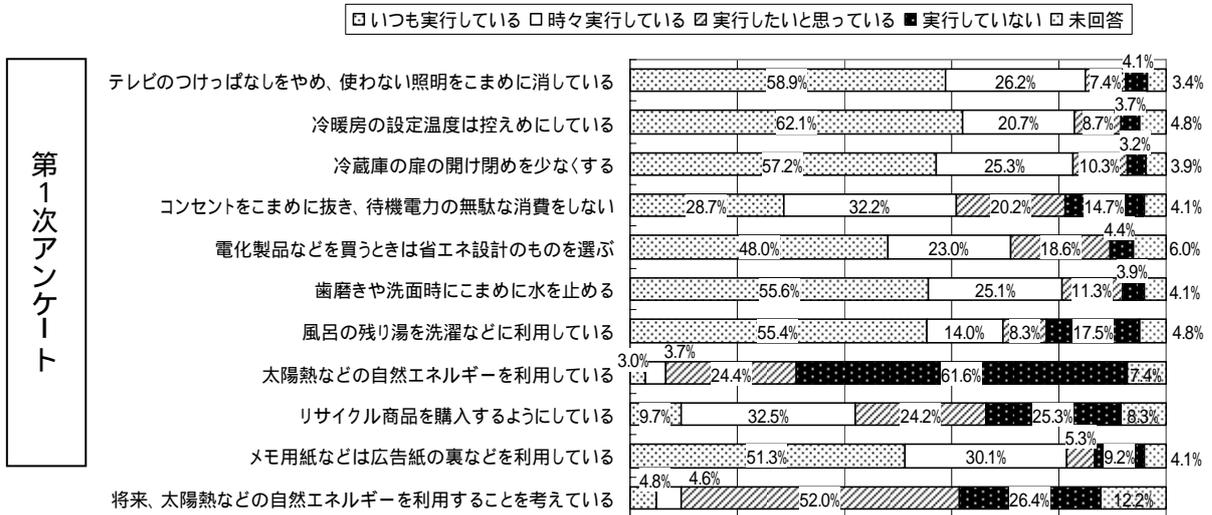
地球環境への関心に関する各項目について、平成12年、平成23年結果の「関心がある」「少し関心がある」の回答を比較すると下記の通りとなります。平成12年よりも平成23年の結果の方が、おおむね、環境に関する関心が高い結果となりました。



(3) 環境のために実行していることについて

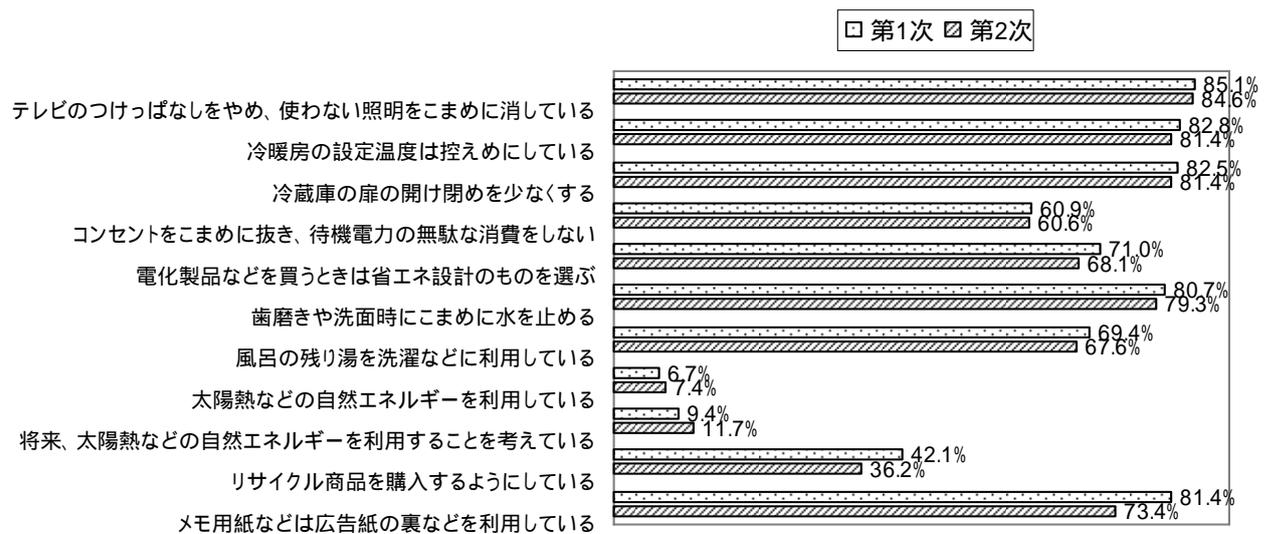
あなたは日常生活の中で環境のためにどのようなことをしていますか。

日常生活で行っている環境行動のうち「省エネルギーや省資源の促進」について実行していることの第1次結果は下記のとおりとなりました。電化製品の電力を抑える「節電」を中心に取り組みが浸透してきています。



第1次と第2次の比較

また、震災後に行った第2次アンケートの結果のうち、「いつも実行している」「時々実行している」人の割合を震災前に行った第1次の割合と比較すると、次のグラフの通りとなります。震災を機に環境への関心が高まっていたことから、環境行動も増えていることが予想されましたが、第1次から第2次にかけて有意な数値の変化は見られませんでした。



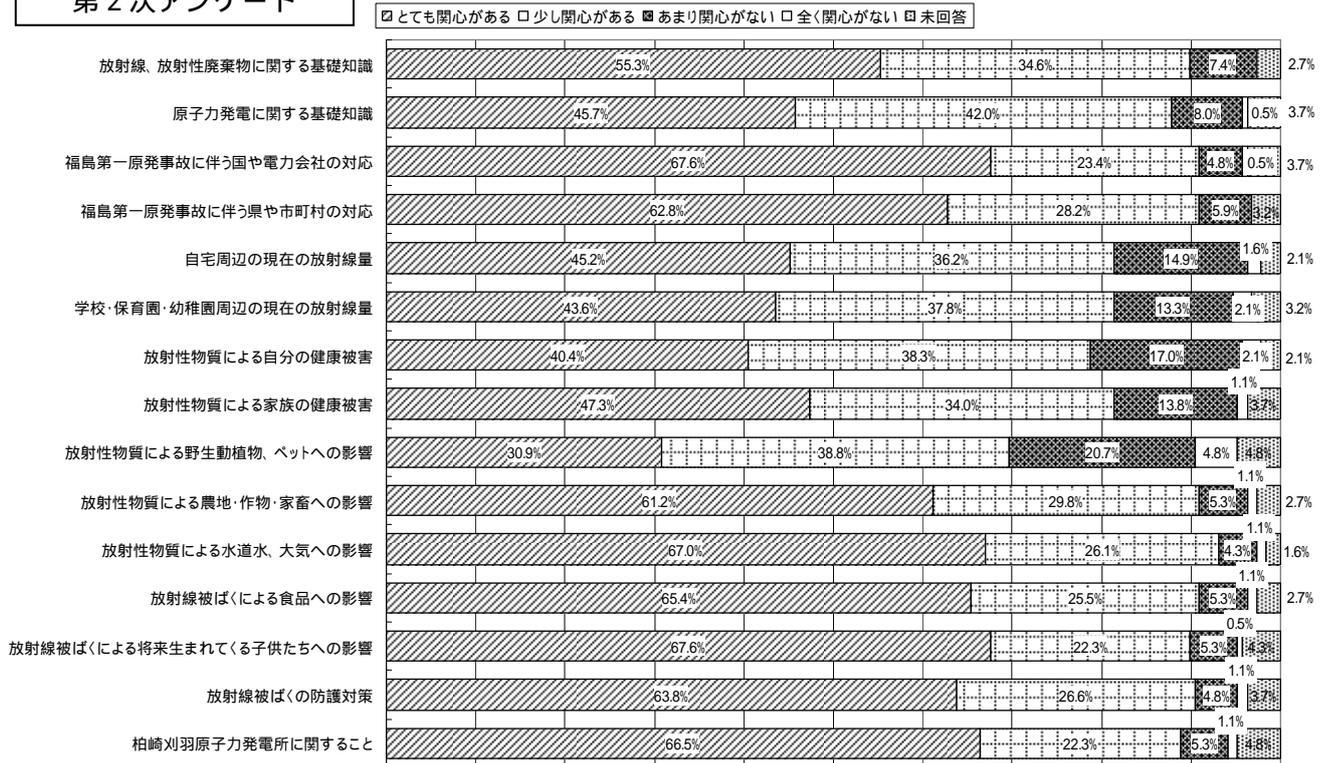
(4) 放射能問題について

震災後に行った第2次アンケートでは、原子力発電所事故による放射能問題が発生していることから、放射能についての設問を新たに追加しました。

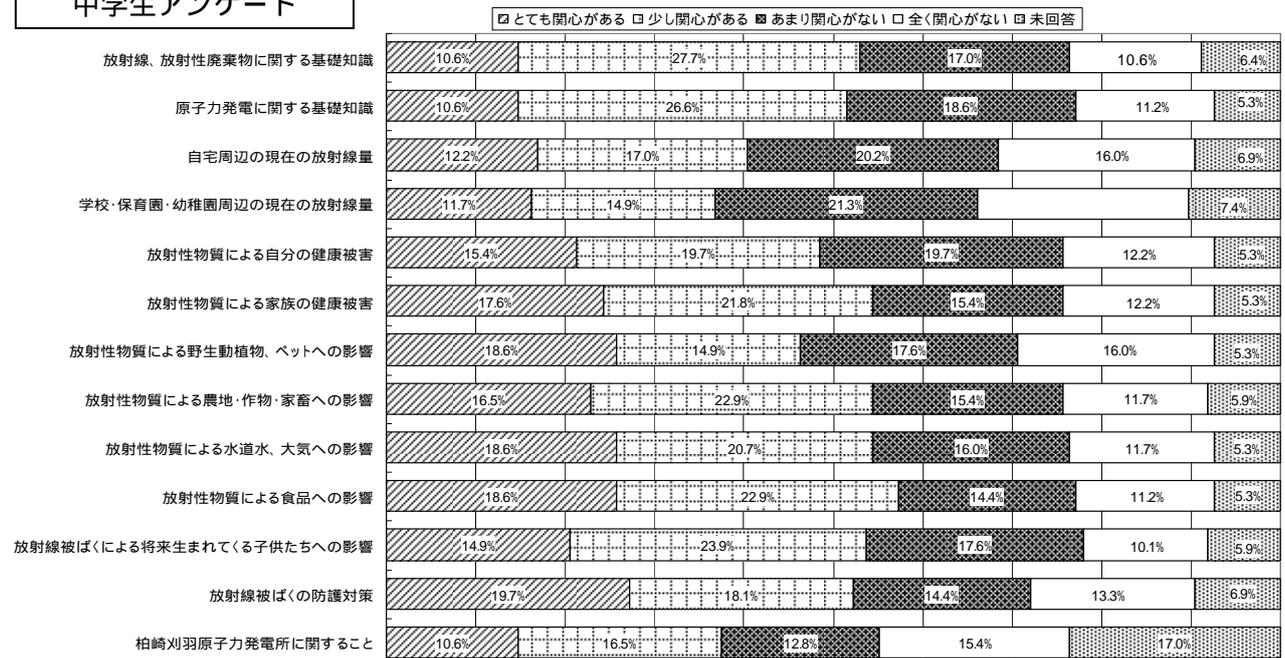
あなたが放射能問題について関心がある事は何ですか。

一般の方はどの項目についても「とても関心がある」の割合が高い結果となりましたが、中学生はまだ関心が低い結果となりました。

第2次アンケート



中学生アンケート



あなたは放射能問題に関する今後の対応について、何をすべきと思いますか。

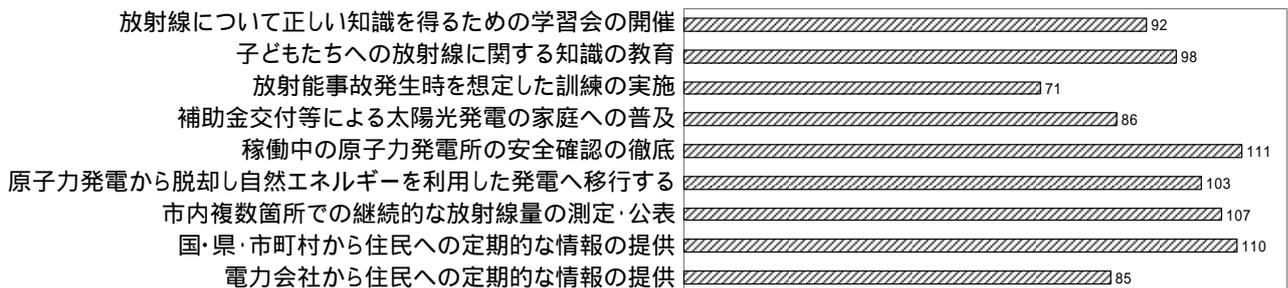
(複数回答可)

「国・県・市等の対応について」は、一般は稼働中の原子力発電所の安全確認が最も多く、その他、一般は情報の提供や放射線量の測定・公表が上位となっています。一方中学生は、太陽光発電の普及が最も多い結果となりました。

「個人の対応について」は、一般・中学生ともに「省エネによる電気使用量の削減」が最も上位となりました。

第2次アンケート

国・県・市等の対応について

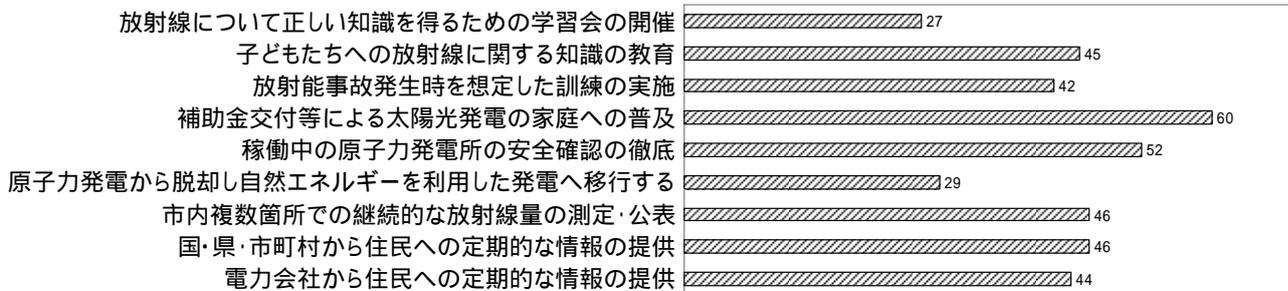


個人の対応について

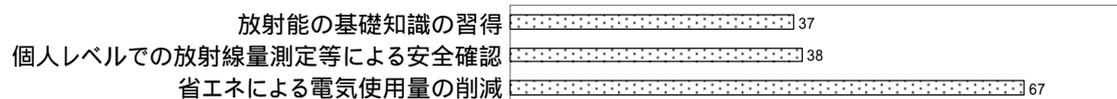


中学生アンケート

国・県・市等の対応について



個人の対応について



1 - 2 市民アンケート調査 自由意見

第1次アンケート

ごみ・資源について

- ・ 便利ではあるが、ゴミになる包装や、パックなど元から作らないことも大事な気がする。分別のために洗浄し水を汚している様に思う。衛生面ではよいかもしれないが、神経質にならない程度に汚さない、片付ける、きれいにする、無駄を無くすを心がけたい。
- ・ 商品の包装について、なるべく大げさなパック等を使わないようにしたり、刺身パックなど回収したりするようにしてもらいたい。またスーパー等のゴミ袋の売り上げの一部を減量対策の運動に使えるようにするのはどうか。
- ・ ゴミの分別が生活に定着してきた。
- ・ 生ゴミダンボール堆肥化等モデル地区を聞いていますが、成果あったのだろうか。推進していたことは知っているが、その成果について一般市民は知りません。
- ・ 冬場、ゴミの収集場所が遠いため、高齢者はゴミ出しが困難。地域でサポートする工夫ができればと思う。
- ・ 生ゴミは特別回収して（特に町中）堆肥化し、伐採樹木、草木などをチップ化し堆肥化して農業資源とすれば、産業がひとつ出来上がり、雇用増大、焼却費用の削減ができる。このようなプロジェクトを立ち上げる。行政担当の発想転換とリーダーシップが問われていると思う。
- ・ ペットボトル飲料や缶飲料は、子供の頃から買わないように教育する。
- ・ ゴミの有料化には反対。近所ではそれでなくても市のごみ減量化に協力しているという理由で畑に穴を掘ってごみを燃やしている家も多い。
- ・ 年2回、夏物の衣類の回収があるが、“目的”をもっと詳しく市民に説明してほしい、知らない人が大勢おりもったいない。
- ・ 酒を買うときにビンを持っていくと詰めてもらえるとうれしい。スーパーでビンの回収をしてもらいたい。
- ・ 子供と一緒に資源物の分別をすると、子供も協力してやってくれるようになった。自分たちが出来ることを少しずつでもやって、良い将来になるようにしたい。

自然環境について

- ・ 水田等の基盤整備が進み身近な水路等がコンクリートとなり、身近な水生動物が見えなくなった。どこか一定の所に復元できないか。
- ・ トレイルに力を入れているのは分かるが、山に人が団体で歩いているのはやはり自然ではない。観光には良いかもしれないが、環境には良くない。
- ・ 飯山の田舎っぽいところ（自然、空気）が大好きだからずっと残してほしい。
- ・ 里山を大事に保全し、人間と動物が共生できる環境が望ましい。
- ・ 野生動物による農作物への被害対策は理解できるが、トラバサミは違法なので取り締まりをしてほしい。野生動物のため少しは我慢も必要。
- ・ 外来種の駆除をお願いしたい。
- ・ 野生動物による被害が多くなってきているので、何か良い方法を考えて欲しい。

生活環境について

- ・ 町で誰でもが挨拶できるような温かい街づくりをしてほしい。
- ・ 近所の畑の野焼きがとても気になる。家の中まで臭くなるので何か指導してほしい。
- ・ 農業等が出るゴミ（野焼き、アスパラ等の残茎）を環境を気にしながら処理するのがつらい。家族、地域全体の協力が必要。
- ・ 飯山は車が無いと生活が不便であるが、自家用車の増加で排気ガスによる大気汚染が心配なため、公共交通を充実させてほしい。
- ・ 豪雪こそ飯山の個性なので、それをもっと環境に利用できるようなアイデアが欲しい。
- ・ 地球温暖化は個人でどれだけの事ができるのか疑問だが、地球のあちこちでゲリラ豪雨や大雪などが降っているとこれから先の天候が不安になる。
- ・ 犬の糞の放置に迷惑している。自分も犬を飼っているが、同じ愛犬家としてとても恥ずかしく、同じ様な目で見られることが不愉快で情けない。

農業について

- ・ 荒廃農地の有効活用、農業を始める人へのバックアップ、有害鳥獣対策が必要と思う。
- ・ 農業をする人が減少し、荒れた農地ばかりとなり動物が出てきて困る。
- ・ 農地の畔草の焼却や稲わらの焼却に関して最近うるさく言われているが、農作業にとって大事な事であるので、規制はしないでほしい。農家は自然環境を守っている。

景観について

- ・ 素朴な風景をもっと売りにしてスローライフを提唱する町にした方が良いと思う。
- ・ 都市化が進み新幹線の高架橋やトンネル工事も進んでいる。便利でありがたい半面、子供の頃見ていた景色がどんどん変化していくことに淋しさを感じる。
- ・ バイパスを通ると景色が美しいと思える。
- ・ 新幹線の駅として立派なビルが建つそうだが、せっかくの飯山の素朴さが消えてゆくのは残念。昔の長野駅も、現在のビルの様な駅になってつまらないものになってしまった。飯山駅はその様にならないでほしい。

その他

- ・ 地域の人々が集まる場所、たとえばお寺や神社、城を整備したり、伝統ある工芸品などの活性化に力を入れて取り組むべきと思う。
- ・ 空き家が増加しているので対策が必要ではないか。
- ・ 飯山の自然や暮らしが好き。なんでもないこの風景がずっと変わらないことを願う。
- ・ 地域によっては高齢化が進み、80歳に近い一人暮らしの方でも、年ごとに当番制で組長が回ってきて、その任務に一年間関わることになる。夏場は何とかできても、冬場の集配等々、腰痛、ヒザ痛など、老いての辛さは大変な事。このような現状の改善を区長総会やら民生委員総会等でぜひ検討していただきたい。

第2次アンケート

放射能問題について関心があること

- ・ 農作物等への汚染が心配。地元産品の風評被害を心配しながら、他地域からの産物に対し風評に流されている自分がいる。情報をしっかり入れながら対応したい。
- ・ 放射能の影響は子供が受けやすく、10年、20年先に症状が出ると聞き不安。子供を守る学校、保育園、幼稚園には出来るだけ情報開示してほしい（敷地内の放射線量や給食で扱う食品の産地等）。人的に大変かもしれないが、ボランティアを募集する等してぜひやってほしい。
- ・ 飯山は大丈夫だと思っているので、関心が薄いかもしれない。
- ・ 放射能の件は世の中ちょっと騒ぎすぎだと思う。レントゲンなど誰でも多少は放射能を浴びている。それよりタバコの方が害は大きいと思う。

放射能問題の対応ですべきと思うこと

- ・ 農作物の放射線量の測定・公表（飯山近隣地域）。
- ・ 小水力発電への補助等、身近なところに期待したい。飯山では冬期の太陽光は厳しい為。
- ・ 自分の住んでいるところが原発より何キロで、事故の時どう対処するのか自治体としての採るべき対策を聞かせてほしい。
- ・ 刈羽原発が福島のような場合、飯山市ではどのような対応が出来るのか。訓練や、市・地区ごとに大規模な訓練、情報交換、区長などの対応等、マニュアルだけではなく、実際に本当に問題がなく対応できるのかなどをやるべきではないかと思う。
- ・ 刈羽原発での事故発生を想定した、避難マニュアルの作成。
- ・ 健診の項目に被ばく量計測を入れてほしい。
- ・ 放射能に対しての正しい知識を習得し、日ごろから災害に対する備えをし、家族単位の訓練が必要と感じる。

震災後に意識が変わったこと

- ・ 節電はもとより、すべての物を大切に生かして使うようにしている。生活を切りつめ寄付をする努力をしている。また地震や原発、環境について本等で学習するようになった。
- ・ 防災グッズを用意したいと思う。懐中電灯はそばに置いた。以前ほどではないが、トラウマ状態がまだ残っている。
- ・ 当たり前だと思っていた事に、感謝できるようになった事。
- ・ いかに電気エネルギーに依存していたか痛感した。
- ・ 水、電気、ガスなどの貴重さを実感し、無駄な浪費は控えようという意識が変わった。
- ・ 食品の安全性について、家族のことも考えて、以前よりも買い物等には気をつけている。
- ・ 地震の大きさ、被害の大きさを出来るだけ子供たちには話している
- ・ 家族で緊急時の避難場所を再確認した。原発に関する意識が大幅に高まった。節電意識が、より高まった。

中学生アンケート

放射能問題について関心があること

- ・ 将来原子力発電が危険になりすぎて使用しなくなった場合、どのようにして発電を行っていくのか。一度震災で原発の放射線の影響を受け原発の恐ろしさを知ったのに、どうして新しい原発を建てようなどという意見が出ているのか。多くの被災者がいるこの現状で、どうして国会議員は無駄なケンカなどしているのか。
- ・ 特になし、でも将来不安。

放射能問題の対応ですべきと思うこと

- ・ 放射線量を私達に知らせてほしい。隅々の地域まで調べてほしい。
- ・ 太陽光発電施設の設置、安全確認の徹底と状況の公表。
- ・ みんなに放射能測定器をあげる。
- ・ 放射線、放射線と福島県や、その他の地域のように、大ごとにし過ぎないようにした方がいい。
- ・ 節電。自然エネルギーを使った電気を使う。
- ・ 出来るだけ家族で1つの部屋にしているようにして、無駄な電気は一切使わない。

1 - 3 事業者アンケート調査結果

- 事業者の環境への関心や環境への取り組みの現状を把握するため、平成23年2月、市民アンケートにあわせて事業者を対象としたアンケート調査を行いました。

アンケート調査実施状況

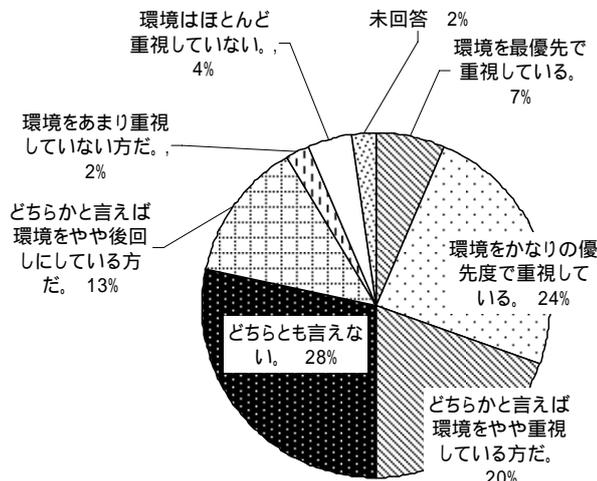
調査対象:無作為に抽出した市内100の事業所

調査方法:調査用紙の郵送

回収率:46.0%(回答数 46)

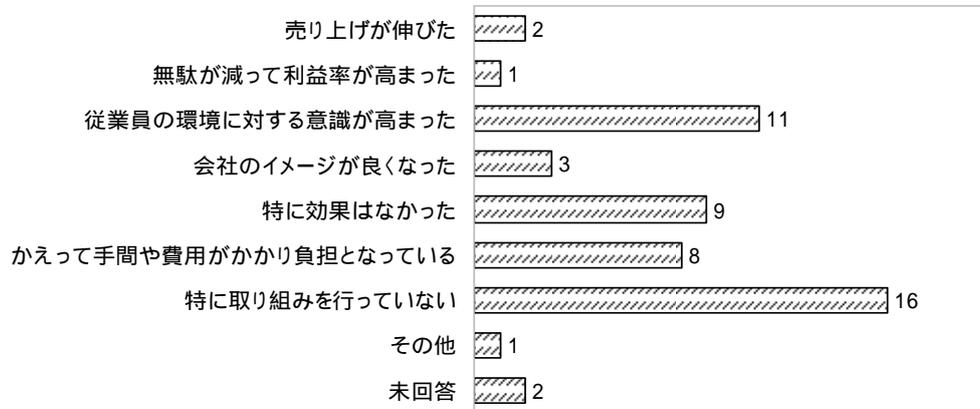
(1) 環境への重視度

事業を行う上でどの程度環境を重視しているかの質問に対し、半数以上の事業所は重視しているという結果となりました。一方、まだ環境について配慮を行っていない事業所も見られ、環境に配慮することの必要性などについて、一層の啓発が必要と考えられます。



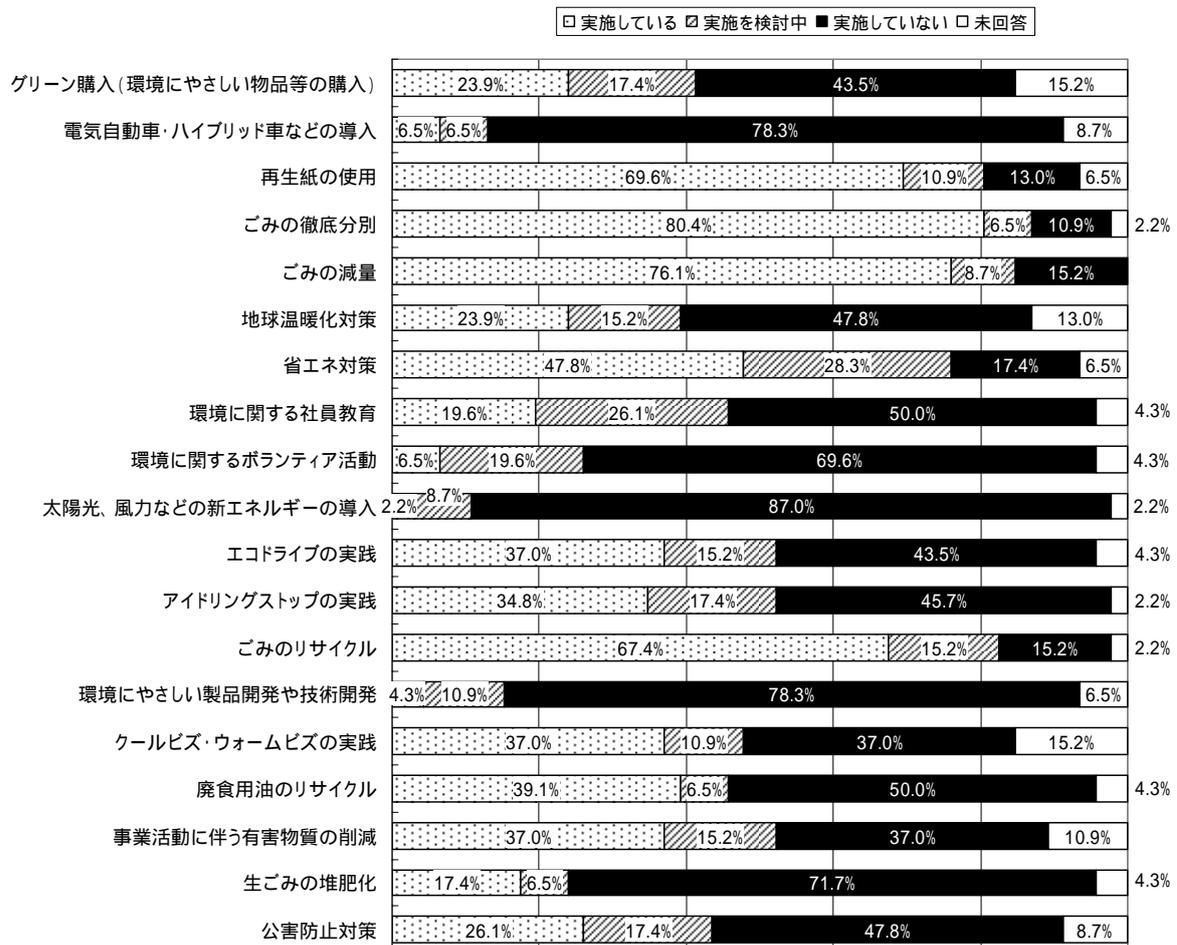
(2) 環境への取り組みを行うことで、どのような効果がありましたか。

効果が出ているという中では、従業員の意識向上が最も多くなっています。一方、手間や費用がかかり負担となっている、という意見もあり、環境への取り組みをメリットにつなぐための情報や仕組みづくりが必要と思われます。



(3) 環境に配慮している事項

日常業務の中で環境のために配慮している事項としては、ごみの分別、減量、リサイクルなどが高くなっています。一方、世界全体の課題となっている地球温暖化対策は、まだ取り組みが少ない状況となっており、啓発を行っていく必要があります。



第2節 環境保全活動・環境教育

2 - 1 環境保全活動

(1) 地域環境美化活動

- 地域の清潔な生活環境を保持するため、市内の各地域では年2～3回の区内清掃や河川清掃を実施しています。特に、市では4月の第3日曜日を「全市一斉清掃日」、7月の第3日曜日を「河川清掃日」と位置づけ、全市一斉の清掃活動を展開しています。
- 多くの事業所においても、従業員による周辺のごみ拾いなどの清掃活動や、工場団地内の側溝の泥上げ、草刈り等の環境美化活動が行われています。
- 空き缶等の散乱防止を図るためには、行政、事業者及び消費者が一体となった防止対策の取り組みが必要であることから、長野県では5月下旬に県下一斉に「環境美化運動の日一斉行動」を実施しています。本市でも県の運動に合わせ、毎年、市民・事業者の参加により、空き缶等の回収やポイ捨て防止の啓発活動を行っています。



市民、事業者、行政が参加し行われている「ごみ0運動の日」の活動の様子

(2) 地域における環境保全事業

- 清らかで安全な河川環境の保全のため、市内には10の中小河川周辺の市民が21の河川愛護団体を結成し、毎年、草刈りや清掃活動を行っています。
- 本市では平成20年度から22年度まで「悠久のふるさとづくり支援事業」、また23年度には「輝く地域づくり支援事業」として、住民が自ら考え、自ら行う事業に対し助成を行い、地域の活性化を図っており、環境の保全や景観形成に関連する事業にも役立てられています。

「輝く地域づくり支援事業」における環境保全等の取り組み(平成23年度分)

実施団体	概要
神戸むらづくり委員会	県指定天然記念物「神戸の大イチョウ」周辺の保全活動を実施。
団塊世代の地域デビュー応援事業実行委員会	ガーデニングについて講習を受け、湯の入荘周辺ほか市内道路の周辺に季節の花々の植栽、管理を実施。

2 - 2 環境教育

- 環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会を実現していくためには、市民一人ひとりが環境に関心を持ち、環境保全活動に参加する意欲や環境問題の解決に資する能力を育成することが重要です。

- 本市では、次世代を担う子どもたちに、自然体験や生活体験の機会を積み重ねていくことが環境教育としての重要課題として位置づけ、自然環境の保全や環境意識の啓発を進めるために「せせらぎサイエンス」、「3R()推進ポスターコンクール」、「エコアイデア工作コンクール」などを通じ、環境教育を推進しています。
- 公民館においても、環境セミナー等の講座において環境に関わる講演会や、子どもたちを対象にした体験学習を行っています。
また、地域等での出前講座においても生ごみ堆肥化やごみの減量など、環境に関わる講座の要請が多くなってきています。

3R・・・Reduce(リデュース):減量、Reuse(リユース):再使用、Recycle:(リサイクル):再資源化の3つの頭文字「R」からできたごみ減量のための考え方で、ごみの発生抑制 再使用 ごみの再資源化 の優先順位でごみの削減に努めようと呼びかけているもの。



「3Rポスターコンクール」作品



「環境セミナー」の様子

ごみ減量・廃食用油の回収等、環境を守る活動に消費者の目線で長年取り組む「飯山くらしの会」

市民の皆さん15人で活動する「飯山くらしの会」。輸入食品や食品添加物などの食品問題、大気や水の汚染問題、悪質商法などによる消費者被害の問題など、身の回りのくらしにかかわる問題について、長年、広く学習や啓発活動を行ってきました。

現在は段ボールを使った生ごみ堆肥化講習や、家庭で不要となった食用油の回収、また回収した油を原料とした石けん作り講習などを通じ、消費者の目線でごみ減量や3Rのための啓発活動を行っています。

段ボールを使った堆肥づくりは、身の回りにある材料を使い行うことができ、もえるごみの約半分を占める生ごみの減量に大きな効果があります。また、廃食用油の回収により、台所から下水道や河川に流される油をなくし、それからできた石けんは、汚れが良く落ちると評判です。

くらしの会の皆さんによる講習会は飯山市の出前講座と連携して、各種イベントや地区・グループの受講も受け付けています。ぜひ一度、挑戦してみてください。

(お問い合わせ先: 市役所市民環境課生活環境係)



段ボールを使った生ごみ堆肥化の実演講習

里山を保全する取り組み

国の天然記念物「黒岩山」の保全

ギフチョウとヒメギフチョウが混生している、全国的にも数少ない貴重な地域として、国の天然記念物に指定されている黒岩山。地元の住民などを中心に組織された黒岩山保全協議会では、毎年、蝶類捕獲の禁止の看板を設置したり、林床に光が入るように森林整備を行ったりするなど、ギフチョウ、ヒメギフチョウの保護、増殖に取り組んでいます。



幻のチョウ「オオルリシジミ」が舞う環境の保全

近年、飯山市内の里山で、絶滅危惧種の蝶・オオルリシジミの生息が確認され、市の内外からボランティアが参加し「北信濃の里山を保全活用する会」が平成23年に発足しました。

会ではオオルリシジミの好む草原を維持するために、会員たちが灌木などを伐採して、食草・クララの生育環境を整備し、観察会を実施しています。また市教育委員会では、里山を保全活用することの大切さを多くの人に理解してもらうため、講演会やシンポジウムなどの広報活動を行っています。

